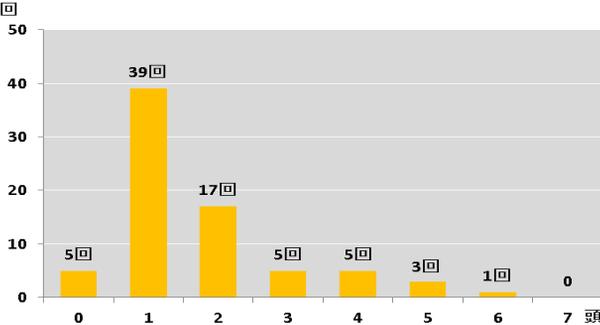


わな(大型捕獲装置)によるニホンジカの捕獲 (農林センター環境部・森林部)

- ・ 導入事例の調査結果から、効果的な運用方法をマニュアル化
- ・ 遠隔操作監視型の大型捕獲装置を開発し、農地および林内で効率的な捕獲を実証

● 導入事例の調査



調査対象:12基(囲いわな[人工知能型9基、遠隔操作型2基]、ドロップネット1基)。全捕獲回数:75回、全捕獲頭数:129頭(平成23年度~25年度)

図1 府内の大型捕獲装置導入事例における捕獲回数

1回当たりの捕獲が1頭の場合が39回と最多で、大型捕獲装置の「一度に複数頭を捕獲する」特徴が、うまく活用されていなかった。
(調査対象は、人工知能型や遠隔操作型の囲いわなとドロップネット。合計12基。)

うまく活用するためのマニュアルを作成

- ・ 装置の特性を知り操作に習熟する
- ・ シカの行動をよく調べる
- ・ 地域全体で運用する

● 開発した大型捕獲装置の実証

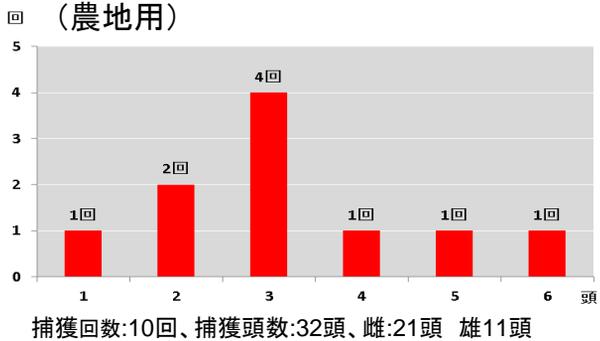


図2 遠隔操作型の農地用囲いわなにおける捕獲頭数

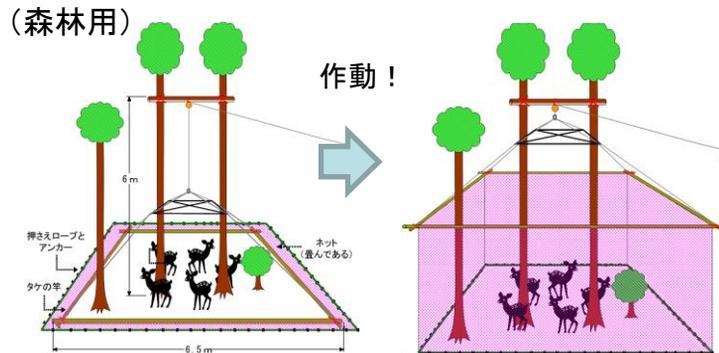


図3 新たに考案した遠隔操作型の森林用アップネット

- ・ 大型捕獲装置の活用には、①装置の特性を知り操作に習熟する、②センサーカメラの併用等でシカの行動を知る、③装置を運用する人や場所の確保に地域で合意しておくこと
- ・ 農地では、稲刈り後の隣接休耕地で効率良く捕獲実証
- ・ 林内では、捕獲装置の改良を重ね森林用アップネットを考案

- ・ 大型捕獲装置を効果的に運用する方法をまとめ、マニュアルを作成しました。
- ・ 大型捕獲装置は、農閑期に農地周辺でシカの出没が多い場所に設置すると、効果的です。